



『世界一の挨拶(表現)』ができる児童生徒に

It is very important to greet people properly. (きちんとした挨拶はとても大切です。) 校長 佐藤 雅彦

毎朝、子どもたちを正門ゲート前で迎えています。誰もが、「おはようございます。」と爽やかに挨拶してくれます。1日の始まりの朝に、子どもたちと交わす挨拶はとても清々しく、今日一日をがんばろうという元気をもらうことができます。

挨拶の語源を調べてみると、禅宗で問答を交わして相手の悟りの深浅を試すことを「一挨拶」といい、その言葉に由来するそうです。「挨拶」には「押し開く」、「互いに心を開いて近づく」、「挨拶」には「迫る」、「擦り寄る」という意味があります。つまり、お互いの心を開いて、相手の心に近づいていくということです。「おはようございます」、「さようなら」など挨拶言葉は短いですが、この言葉が距離を縮め、相手への親しみが湧き、それをきっかけにしてコミュニケーションをスムーズに進めることができます。挨拶する側もされた側も心を開いていくことで、人間関係を築く第一歩になるはずです。

また、「おはよう」は、「早くから、ご苦労様です」という相手へのねぎらいの意味が込められ、「こんにちは」には「今日のご機嫌はいかがですか」という出会った人の体調などを気遣う意味が込められています。

相手の心を開く言葉、相手への感謝や気遣いの気持ちの込められた言葉、そして相手に元気を与える言葉、そんな大きな意味の込められた「魔法の言葉」が挨拶なのです。このように挨拶の意味を紐解くとまた尚更、その大切さが分かってきます。ロンドン日本人学校の伝統として、子どもたちが挨拶の価値

おはようございます!!



と意義を知り、すべての児童生徒が気品にあふれ、世界一の挨拶が飛び交う学校となることを目指します。

Education Sunday への参加(中学部)



学校近隣の、英国国教会聖マーティン教会から、Education Sunday への本校生徒の参加依頼を頂きました。聖マーティン教会が1年に1度行っている地域の教育機関の働きを讃える礼拝で、日本人学校を招待したいということでした。本校では、英国の教育カリキュラムに規定されている社会的スキルの育成を図る PSHE (Personal, Social and Health Education) の一環として宗教についての学習を推進しており、今回の英国国教会への訪問を有意義な機会と捉えて、中学部有志生徒による合唱発表と代表生徒から学校紹介をする形で参加しました。

礼拝では、スクリーンに映し出された牧師の言葉に参加者全員で祈りの言葉を続けました。さらには、生徒たちは神をたたえる歌をピアノの伴奏に合わせて口ずさみ、各団体のパフォーマンスの時間には賛美歌でゴスペルの名曲「アメイジング・グレイス」を披露しました。混声三部合唱の美しい声が聖堂に響き渡り、歌い終わった後には大きな拍手を頂きました。初めて礼拝に参加した生徒からは、「教会では、こんなにたくさんの賛美歌を歌うとは知りませんでした。幼い子も澄んだ声で歌っていて、心が洗われるような思いがしました」などの感想が聞かれ、この地で礼拝に参加したからこそ体験できた価値ある学びだと感じました。

